

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191500032		
法人名	有限会社 五十嵐水産		
事業所名	グループホーム ゆずりは		
所在地	松前郡松前町字静浦409番地4		
自己評価作成日	平成24年10月30日	評価結果市町村受理日	平成24年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の場所は、国道から少し離れた神社の裏手にあり、騒音とは無縁の静かな環境の中にあります。また、松前町は桜の名所であり、施設周辺にも桜があり、春には花見を楽しめます。入居者数や職員が増えた事により、施設内でのイベントを行う機会が増えました。自然豊かな松前町は、漁業の町でもあり、食材には新鮮な海の幸を食卓にとり入れています。また、出来る限り地元で採れた野菜、山菜なども提供するように努めています。ゆったり穏やかに、のんびり楽しく過ごしています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kihon=true&JigyosyoCd=0191500032-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成24年11月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

道内最南端である松前町の北部に位置している当事業所は、5年前に開設した1ユニットから、昨年増設した1ユニットと、今回、2ユニットとして初めての外部評価である。お正月のメ飾りや鏡餅に飾る「ゆずりは」は常緑樹で、地元では縁起が良いとされているところから、事業所の名に取り入れている。運営者は長年にわたり水産業経営の傍ら、福祉関係の要職にあり、高齢者が地域でその人らしく暮らしてほしいとの願望を抱き、行政や町内会との連携を構築し、以前、保育所として使用していた建物を改築して開設している。ホームでは、利用者を対象としたマグロの解体ショー、また、誕生日には、家族が事業所全員に手作りの海苔巻きやケーキを届け、一緒にお祝いするなど温かい雰囲気のある事業所である。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な過ごさせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念は玄関、食堂、事務室に掲示し、常に思い浮かべる様に啓発している。</p>	<p>「経営理念・基本理念・ケア理念」と独自の理念を作成し、利用者に関わる際には「ゆったり穏やかに、のんびり楽しく、共に笑顔」と具体化したケア理念を職員全体で共有し、実践に活かしている。</p>	
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>行事に地域の方々を招待したり、地域の祭りに参加するなど、地域の一員として交流するよう努めている。</p>	<p>町主催の桜祭りや長寿の集いの参加や町内会の行事の協力、小学生の歌やゲームの訪問会があり、地域との交流が盛んである。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通して積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>			
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議での意見、要望等をサービス向上に活かせるように取り組んでいる。</p>	<p>2ヶ月ごとの会議は、町担当者や町内会役員と婦人会、歯科医師、消防署職員、家族等が参加している。現状報告と活発な意見交換があり、サービスの質の向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>町役場の担当者とは通達事項があるごとに連絡を取り、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>町担当者とはメールやFAXで連絡を取り合い、また、グループホームのあり方に関するアンケートを町より依頼されるなど、協力関係を構築している。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>全職員に対して、身体拘束禁止の行為を理解させるため、内部研修を行っている。また、防犯のため、夜9時から翌朝5時までは玄関の施錠をしている。</p>	<p>管理者と職員は、身体拘束の禁止の対象となる行為を理解し、外部研修会に参加して研鑽を重ね、お互いに注意し合いながら、拘束のないケアを実践している。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止について学ぶ機会はまだ設けていないが、事業所内で虐待がおきないように注意を払っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度についての研修等があれば参加し、必要性がある場合は活用できるように努めたい。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際は十分な説明を行っているので、理解・納得を得られていると思う。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議または施設を訪問した際に、意見、要望を伺っている。</p>	<p>家族の訪問時に、利用者の近況を伝えと共、意見や要望を伺っている。遠方の家族には電話の時に聴いており、表出された課題は職員間で話し合い、反映させている。</p>	
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議にて意見や提案を聞く機会を設けている。</p>	<p>月1回の職員会議の中で、職員の意見の聴取に努め、必要に応じてミーティングで話を聴く機会を設けて、働く意欲の向上や質の確保に繋げている。</p>	
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>可能な限り職場環境、条件の整備に努めている。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>可能な限り研修を受ける機会を確保できるように努めている。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>交流会を行ったり、推進会議の相互訪問等を通じて、サービス向上にむけた取り組みに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時点では、利用者の行動、言動に特に注意し、一日でも早く安心して暮らせるための信頼関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申込み時から、訪来の際等に家族の要望等を伺い、信頼関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	常に利用者への支援のあり方については考えており、可能な限り他のサービス利用も含めた対応も考えている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護にならないように、暮らしを共にする者同士の関係づくりに努めている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の要望を取り入れながら利用者を支えていけるような関係づくりに努めている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族または親類との交流の機会が途切れないように、外出、外泊が自由できるように支援している。	町主催の長寿の集いの時に馴染みの方々との再会があり、親戚の方や友人の訪問がある。馴染みの理容院に出掛けるなど、継続的な交流ができるよう働きかけている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者が孤立せず、利用者同士が支え合えるように、利用者同士の関係を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も、相談があれば支援に努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、利用者の希望等を把握するよう努めている。	職員は、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努め、明確に把握できない時は家族の協力を得たり、居室でゆっくりと話を聴き、動作、表情により支援をしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報(若い頃の写真を持ってきてもらう等)及び利用者との会話から、生活歴を把握するよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サービス記録等を利用し、職員間で情報を共有することで、利用者の現状を把握するよう努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議にてケアのあり方について話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	職員からの情報とモニタリング、家族と本人の意向や要望を取り入れながら、サービス担当者会議で検討し、現状に合った介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はサービス記録に記載し、職員間で情報を共有しており、介護計画の作成に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や送迎等の本人や家族からの要望に柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公共機関をはじめ、民生委員、自警団、ボランティアなどにも、安全で豊かな暮らしができるよう支援していただいている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町立松前病院による月2回の訪問診療を利用している。また、利用者の希望がある場合は、その都度、受診支援している。	月2回、町立病院の往診があり、看護職員による健康管理が行われ、受診の同行や主治医と情報交換するなど、適切な医療を受けられるよう支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、訪問診療時の支援や、利用者の健康管理に努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とは会議及び訪問診療を通じて連携し、利用者が入院した際には、情報交換や相談に努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関側の医師及び看護師不足の理由から、十分な連携がとれないため、ターミナルケアは行っていない。	利用者が体調の急変で、病院に搬送して、まもなく死亡した事例があり、看護職員を中心に事業所として、ターミナルについての内部勉強会や外部研修会に参加して、方針を検討中である。	事業所としての方針を検討し明確にするための準備をしているので、家族からの同意と職員間での方針を共有することを期待する。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急な事故に備えたマニュアルは整備している。定期的な訓練は行っていないが、全職員を対象に消防より訓練を受けている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員参加のもと、消防訓練(消火・通報・避難)を行っており、地域との協力体制も築いている。また、地域で行われた防災(避難)訓練にも参加している。	年2回の災害の訓練は消防署と地域の協力で実施している。出火場所を設定して、通報・避難・誘導の訓練には全員が参加し終了後、反省点などが話し合われている。	
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライドを傷つけないように言葉がけに注意している。	利用者の人格を尊重し、声をかける時、排泄時、入浴時などプライバシーに配慮して支援をしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いを感じ取り、分かりやすい言葉で説明し、自己決定できるように働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはある程度きまっているが、出来る限り一人ひとりのペースを大切に、本人と他の利用者が共同で生活できるように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望にそった身だしなみができるように支援している。また、理髪は訪問サービスを利用している。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
40	15	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備や片付けは、出来る限り職員と共同で行っている。また、利用者の食事の好みを考慮し、食べやすい形態で提供している。</p>	<p>海の幸、山の幸の豊富な所で、家族からの差し入れも、あわび・うに・なまこや時期の山菜などが届き、利用者は刺身造りが得意で新鮮なものを美味しく食べて、職員と一緒に後片付けをしている。</p>	
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>必要に応じてサービス記録により管理している。一人ひとりの状態に応じた支援をしている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、口腔ケアを実施している。また、月に4回ほど歯科医師による訪問診療も利用している。義歯洗浄機も使用している。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>本人の希望により車椅子または両手引き等、できるだけトイレ誘導をしている。</p>	<p>病院から退院直後は、オムツを使用していた利用者の排泄パターンを把握し、声かけ誘導などでトイレでの排泄支援を続け、自立に成功し、安心と自信を取り戻している。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘の予防と対応は、主治医に相談のうえ、日常の食事の際に取り組んでいる。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている</p>	<p>入浴は週に2回、個別に日時を決めているが、利用者の体調等により、柔軟に変更できるように支援している。</p>	<p>入浴一覧表をリビング壁面に提示し、入浴した日には、本人がシールを張り、全員でシールを数えて順位を決定することを取り入れたら、入浴拒否の利用者がいなくなり楽しんで入浴している。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの体調を考慮して、その時々状況に応じて休息したり眠れるように支援している。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の管理は介護職員が行っており、服薬と症状の変化はサービス記録に記載している。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>得意なことや趣味を活かした役割をもうけ、張り合いのある日々を過ごせるように支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者が希望する場合は、買い物や食事などの外出支援に努めている。また、家族や親類などが訪問の際は、お墓参りや外泊など、自由に出かけられるように支援している。	事業所周辺の散歩や買い物、銀行の記帳に同行するなど、積極的に戸外に出て、ストレス発散や五感刺激を得られるよう支援をしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方は、本人に管理してもらっている。また、預かり金は本人や家族の希望により、いつでも使えるよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により電話は自由に使用できる。また、手紙のやり取りが出来るようにも支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は明るく、常に清潔であるように日々の清掃は欠かさず行い、温度、湿度にも気を配っている。また、季節の花を飾ることで季節感を採り入れ、居心地よく過ごせるように配慮している。	台所とリビングは広くてゆったりとして開放感があり、利用者の俳句が短冊に収められ、書道家が書いた書が飾られ、不快な臭いや音もなく、大きな窓からの景色は季節の移り変わりを感じ、家具の配置も家庭的である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間と食堂はバリアフリーになっており、廊下にはソファを置き、気のあった仲間同士が過ごせるような場所を確保している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談し、利用者の使い慣れたものや位牌等を持ち込めるようにしている。	在宅当時の家具や日用品がある居室は、家族と相談しながら、自宅の環境に近いように配置し、温かい雰囲気配慮している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、浴室の要所には手すりを設置している。また、トイレには呼び出し用のプザーを設置し、安全でできるだけ自立した生活が送れるように配慮している。		